

市民、行政、企業をつなぐ ネットワーク型のまちづくり

鎌倉市スマートシティ官民研究会

酒井一樹 (SAKAI, Kazuki)
一般社団法人コード・フォー・ジャパン



Code for
Japan

Hello!! My Name is

酒井 一樹

SAKAI Kazuki

長野県飯山市生まれ、札幌育ち、東京在住
2016-2021年に、経済産業省で最初のデジタル化推進
マネージャー(非常勤)として勤務
METI-DXやGovtechを内外で推進し、省庁のみならず、
官民の垣根をも越えてカルチャーやマインドの醸成
に尽力
2021年4月よりCfJにて、MoC(Make our City)プロ
ジェクトの統括PMを担当



© Code for Japan

Code for Japan のご紹介

ともに考え、ともにつくる。

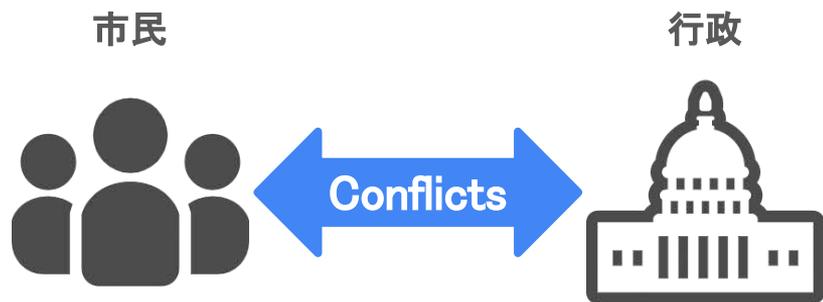


シビックテック アプローチ

オープンにつながり、社会をアップデートする

公共モデルを「行政依存」から

「共創」へ



シビックテックの事例(オープンソース)

地域の活動・市民の困りごとに対してプロトタイピングでアプローチ

災害×検索機能： 民間支援情報ナビ

緊急時対応として立ち上げられた複数の民間や国の支援策を横断的に検索できるサイト。データは経産省が標準化、オープンデータ化を推進。CfJでもデータ収集を実施。



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000039198.html>

災害×マップ： 紙マップ

2018年の広島豪雨で開始し、台湾・韓国・日本の合同ハッカソンでのバージョンアップを経て、2019年の千葉水害などにも活用された災害支援地図。印刷で端末がない状況にも対応。



<https://hack4.jp/articles/sd/vol97/>

教育×オープンデータ： おうちで時間割

臨時休校期間にスマホから動画コンテンツなどを組み合わせた学習計画表を閲覧して勉強できるツール。NHK for Schoolのデータ提供もあり、実際に千葉など複数の小学校で導入。



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000024.000039198.html>

NHK
for School

シビックテックの事例(オープンデータなど)

データの作り方・使い方、慣習に対する啓発的なアプローチ

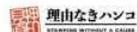
BADオープンデータ供養寺

データ分析やサービス開発等にすぐ使用可能な形式になっていないオープンデータを集める



理由なきハンコ

不要不急な押印を見直し、新しい働き方の事例をわかりやすく伝える



プロジェクト一覧 | このサイトについて | 利用規約 | 活動の記録 | 資料集



理由なきハンコ プロジェクト

不要不急な押印をなくすための、様々なプロジェクトをまとめています。

現在進行中のプロジェクトは、[プロジェクト一覧](#)をご確認ください。



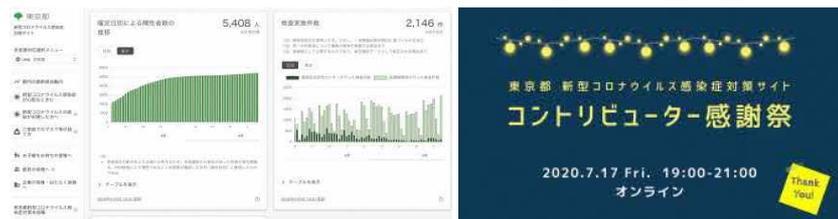
シビックテックの事例(地域との取り組み)

市民と行政の連携が進み、災害時の垂直立ち上げに貢献するケースも

東京都 新型コロナウイルス感染症対策サイト
オープンソースにしたことで、約300人が開発に参加
(コントリビュート)した。約80地域の派生版が作ら
れ、全国的なムーブメントになり、総務省との連携で
データの標準化も推進。

加古川市 Decidim

オープンソースの参加型民主主義プラットフォームと
して日本初導入。地元高校生も含め200名が参加
し、約300のコメントによりスマートシティ構想の策定
に活用。



<https://stopcovid19.metro.tokyo.lg.jp/>



<https://kakogawa.divcities.jp/>

まちづくりのバージョンアップ

「MoC」をコンセプトとしたスマートシティ・スーパーシティの推進

テクノロジーをうまく使いこなし、地域に根ざした住民、企業、誰もがオープンに参加し、みんなで議論しながら一緒に作り上げるまちづくりを目指す。

自分たちが理想とする暮らしを、自分だけじゃなく仲間をふやし、街全体で取り組んでいきたい



市民

都市づくりにおいて、市民を巻き込んだ合意形成をスムーズにしたい



市役所職員

自社の技術やサービスを都市づくりに活用したいけれど、地域や行政との関わり方が難しい



企業



市民、行政、企業をつなぐ ネットワーク型のまちづくり

鎌倉市スマートシティ官民研究会

酒井一樹 (SAKAI, Kazuki)
一般社団法人コード・フォー・ジャパン

スマートシティの課題

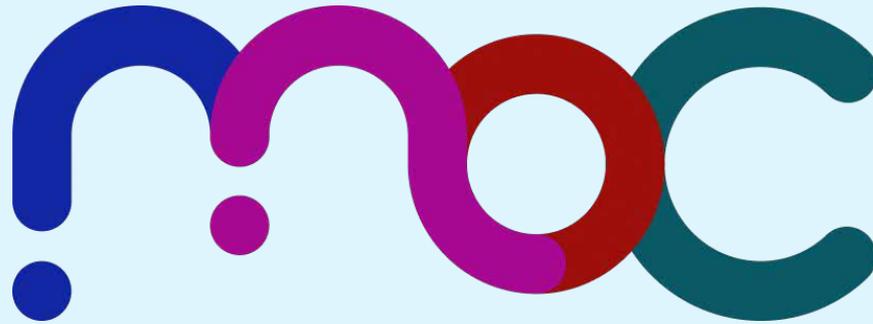
全国で導入がはじまったスマートシティには、以下の課題があります

- 1) 行政や企業主導で進められ、市民不在
- 2) 各地で実証実験やアプリの開発がおこなわれているが、有望なユースケースがない
- 3) 自治体にとっては新たな支出となるため、今後は特にランニング費用が課題になる。特に市民との合意形成がないため、大きな問題となる可能性

Agenda

1. 「Make our City」とは
2. シビックテックとは
3. テック＝技術は、人を幸せにするのか

Make our City



MoC (Make our City) とは、全国各地で都市に関わるひとり一人の「やりたい！」を実現するために、市民、行政、企業をつなぐネットワーク型のまちづくりのチャレンジです。

スマートシティに「多様性」と「ヒューマンスケール」を。

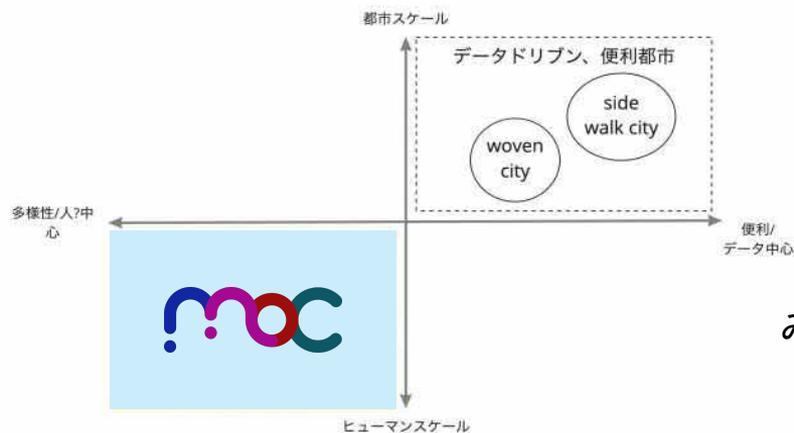
最近よく耳にする「スマートシティ」とか「スーパーシティ」という言葉。AIやIoTを使って、暮らしが便利になるのはもちろんいいことですが、なんとなく、そこで暮らす住民や、地域に愛着を持ってまちづくりに取り組むプレイヤーたちが置いてきぼりになっているような印象を受けます。

都市の魅力は、利便性や効率性といった画一的なモノサシで測れるものではなく、地域に潜むローカルな魅力を発見し、価値につなげる豊かさと多様性にあるはず。

テクノロジーに支配されるのではなく、地域に根ざした住民、企業、誰もがオープンに参加し、みんなで議論しながら一緒に作り上げるようなまちづくりのために、テクノロジーをうまく使いこなす。

そんなまちづくりのあり方を私たちは「MoC」と名付け、この構想を実現するために必要なしくみやアイデアを、みんなで考えていきたいと考えています。

Smart City MAP



基盤レイヤーを都市単位でマネタイズするのはナンセンス

- 最初から複数都市が乗り入れられるように設計すべき
- 「OS」がガラパゴス化してしまったら自己矛盾である
- EUのように、オープンソースを活用して複数都市で活用できる形が必要
- 機能が同じである以上、都市毎にプラットフォームを分けるべきではない
- とはいえ、「日本で一つ」に集約するのは無理がある

スマートシティに「多様性」と「ヒューマンスケール」を。

日本のスマートシティは実証実験が繰り返されてきたが、全国に展開できるようなスマートシティの成功事例は生まれていません。

その原因が行政と企業が技術先行型でスマートシティを導入しようとし、そこで暮らす市民の理解とニーズを必ずしも反映したものではなかったことにあると私たちは考えています。

スマートシティの設計段階から、市民が参加するプロセスを埋め込む。市民が参加することで市民の意見や地域性が反映され、単に便利で効率的なだけでなく、多様で包摂的なスマートシティができるのではないのでしょうか。

はじまりは 「DIY都市をつくろう」

はじまりは「DIY都市をつくろう」

2020年7月27日に、代表理事の関がnoteに書いたこのエントリが、そもそもの始まりでした。

(正確には、その4日前にFacebookに投稿したところ、思いの外に反響が大きかったところが最初)

DIY 都市を作ろう

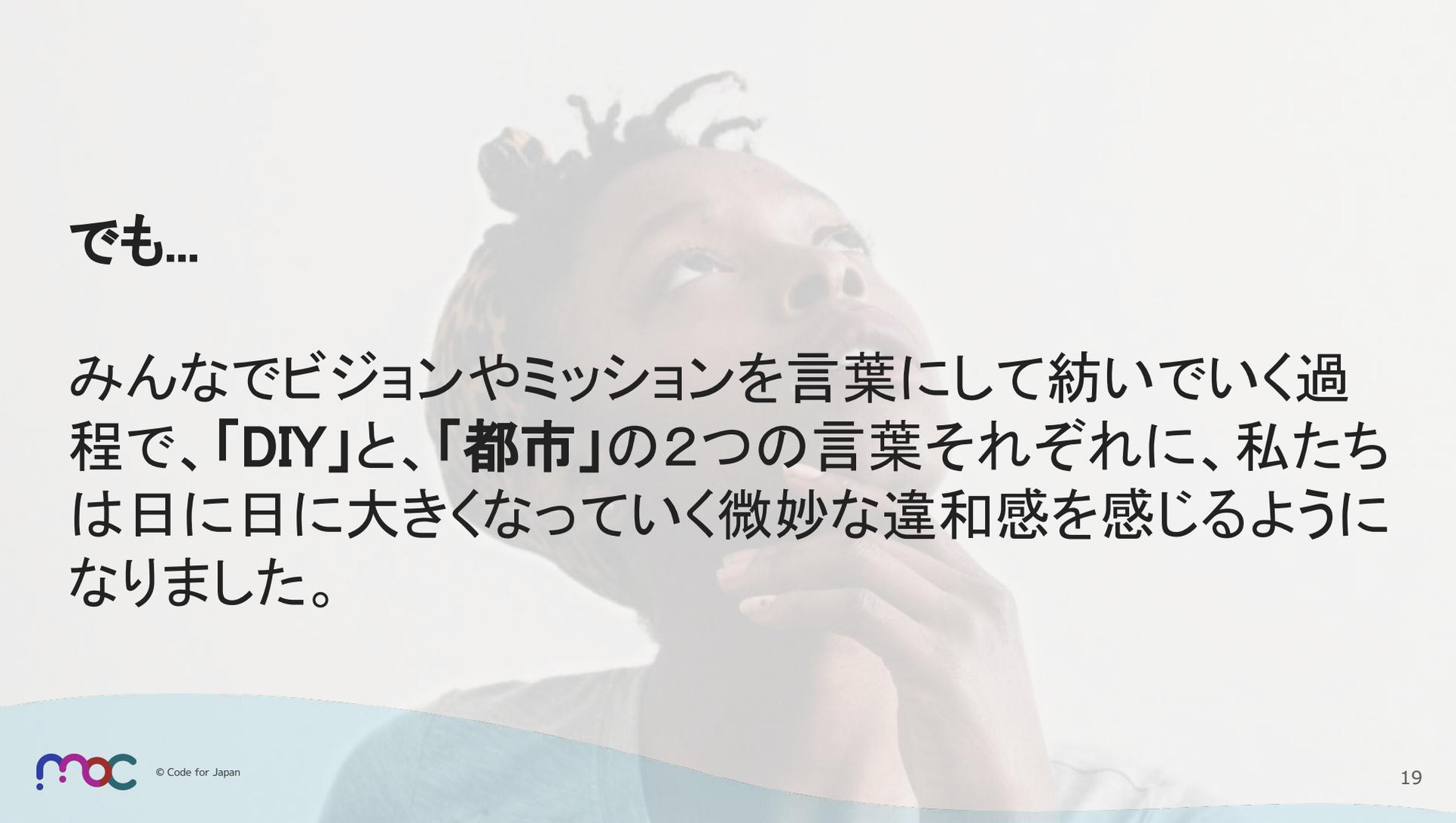
♡ 172



Hal Seki

2020年7月27日 08:54





でも...

みんなでビジョンやミッションを言葉にして紡いでいく過程で、「DIY」と、「都市」の2つの言葉それぞれに、私たちは日に日に大きくなっていく微妙な違和感を感じるようになりました。

1つ目は、「Youself(あなた)」ではなく 「Ourself(わたしたち)」ではないかということ

自らがまちづくりに関わっていく。
誰がやるのか？その対象は「わたしたち」だよね？という違和感でした。

そして2つ目は、 「都市」という言葉に対する違和感

この言葉は「都市計画」や「政令指定都市」等を想起させ、
対象を大きなものだけに限定してしまう可能性がありました。
わたしたちは「分断」を避け、誰がやるのかにフォーカスしたいと考えました。

多くの都市や地域においてまちづくりを進めていく上で、課題を設定し解決に向けてスタートを切ること自体が、なかなか難しくなってきています。



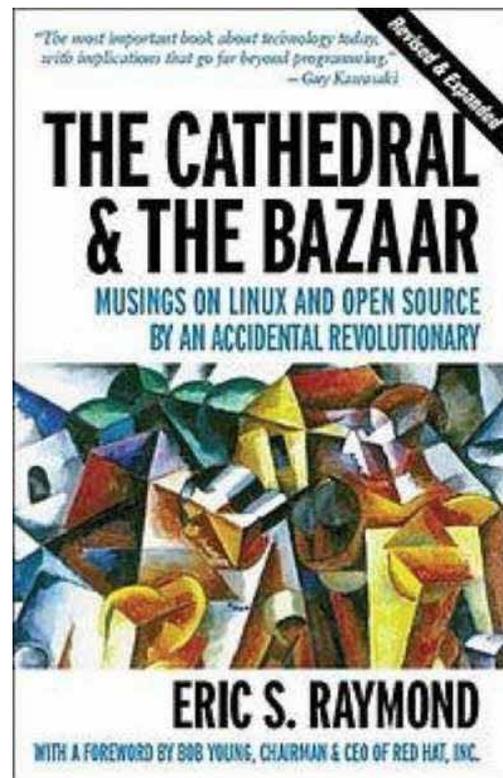
市民や行政、企業、
さまざまな人々の課題や
大きく変化する社会情勢が複雑に絡みあっ
ており、明確な正解も、
正しい解き方も
存在しないからです。



エリック レイモンド「伽藍とバザール」

1999年

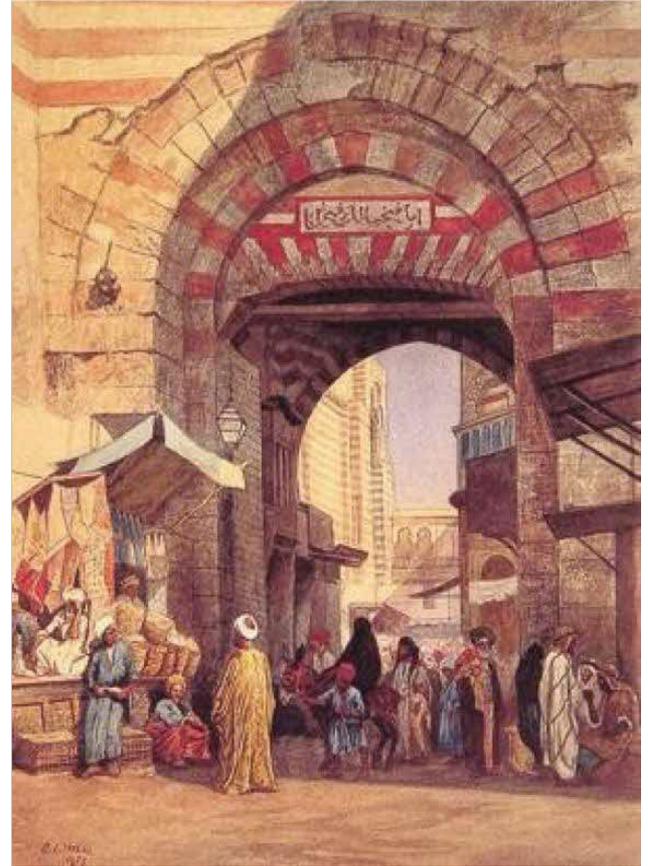
オープンソースソフトウェアの
開発スタイルを評価したエッセイ



伽藍



バザール



V S

伽藍

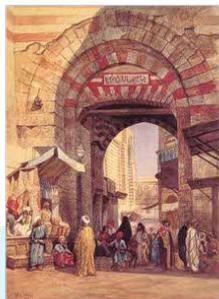


綿密な計画、堅牢な設計

中央集権

長いリリース期間

バザール



変更を受け入れる

自律的な小集団

早めにこまかくリリース



このような状況では、さまざまな人々が役割
や立場を越え、いち生活者の「わたし」とし
て有機的につながり、
熟慮と熟議を通して
意思決定していくことが
未来を拓いていきます。





MoCは、テクノロジーの活用や
コミュニケーションプロセスの
構築を通して、まちづくりに
関わりたい方全員に向けて、
データやオンライン / オフラインの
オープンな議論、アイデアを実験し実装するための
支援などへのアクセスを可能にします。



**MoCで「わたし」と「わたし」がつながり、「わたしたち」
が生まれていきます。**



これからのスマートシティをめぐる議論はオープンにおこなわれ、つくられるものはできる限りオープンソースであるべきだと考えています。

わたしたちMoCの開発するシステムやノウハウは、みなさんの地域でも自由に使えますし、ぜひ使っていただきたいと思います！

スマートシティを通じて、日本中の「わたしたち」がつながる。
世界ともつながる。

「わたし」から始める、 スマートシティ

Make our City



OUR VISION

「わたし」主体のまちづくりを通してウェルビーイングを実現する

さまざまな人々が豊かに暮らす都市は、そこに関わる人々が役割や立場を越え、生活者としての「わたし」として有機的につながることによって生み出されていきます。

「Make our City」とは

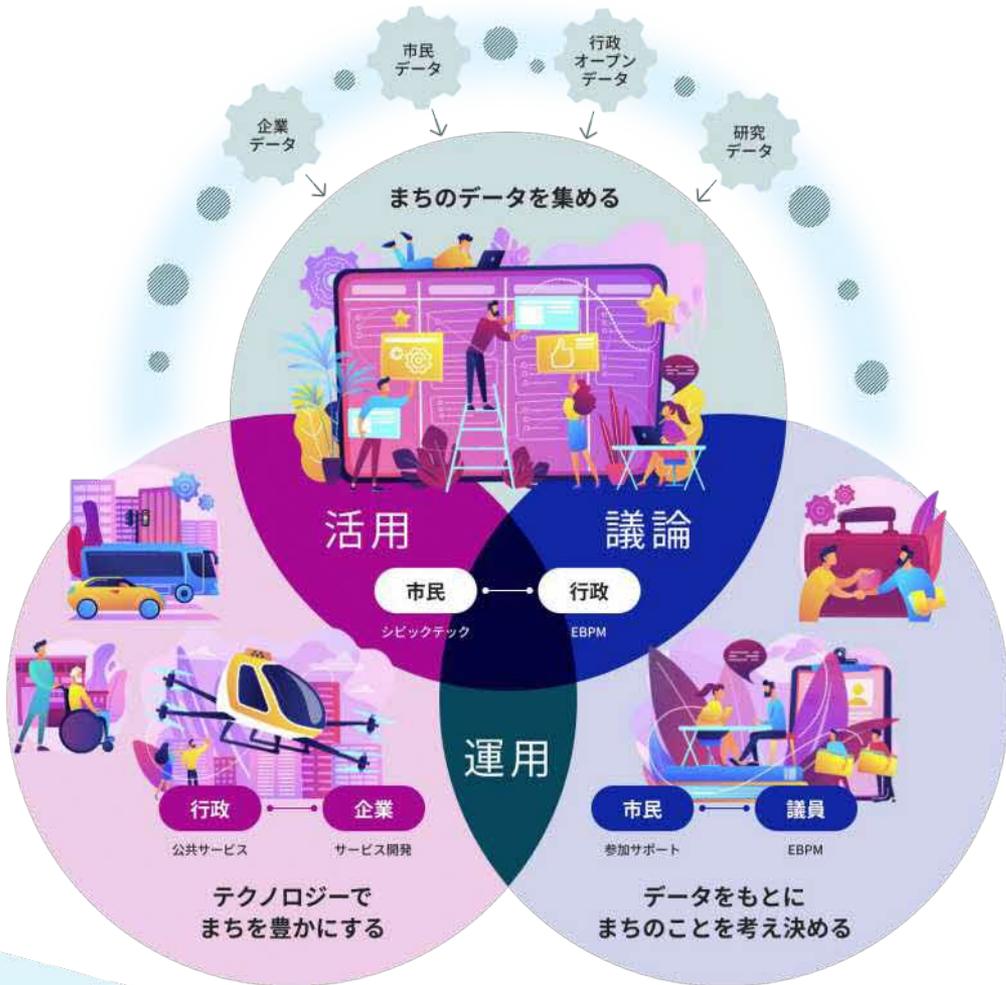
MoCが大切にしたいこと

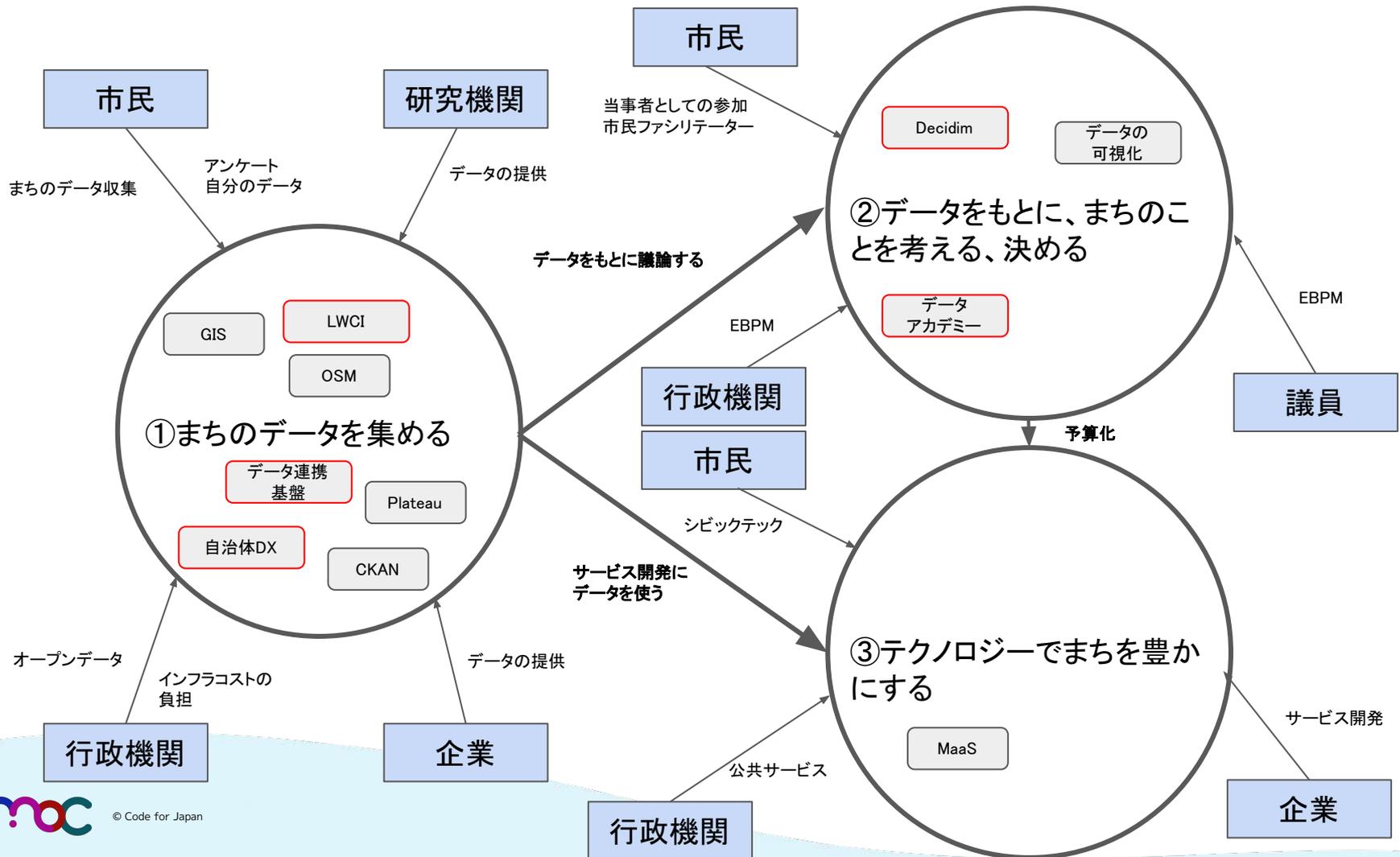
- 誰もがオープンに参加する
- 世代を超えてみんなでつくる
- 小さく始めて、大きく育てる
- ナレッジはグローバルに、実践はローカルに
- オンライン、オフラインを上手に使う

Make our City



「わたし」主体のまちづくりを通して ウェルビーイングを実現する





導入事例

浜松市ORI-PROJECT

Code for Japanは浜松市とデータ連携基盤を活用した実証実験「Hamamatsu ORI-Project」を通して、Make our Cityと称した市民参加型スマートシティの社会実装を進めています。

Code for Japanは本プロジェクトの受託事業者として、昨年度に引き続き、事業検証におけるデータ連携基盤活用の技術支援を行うとともに、今年度は事業構想から支援することでデータ連携の可能性をエンタープライズ企業の皆さんと検討してきました。

社会実装に向け着実に前進している浜松市での取り組みに今後ご注目ください。



Hamamatsu Open Regional Innovation

#3



Agenda

1. 「Make our City」とは

2. シビックテックとは

3. テック＝技術は、人を幸せにするのか

What Civictech

シビックテックとは

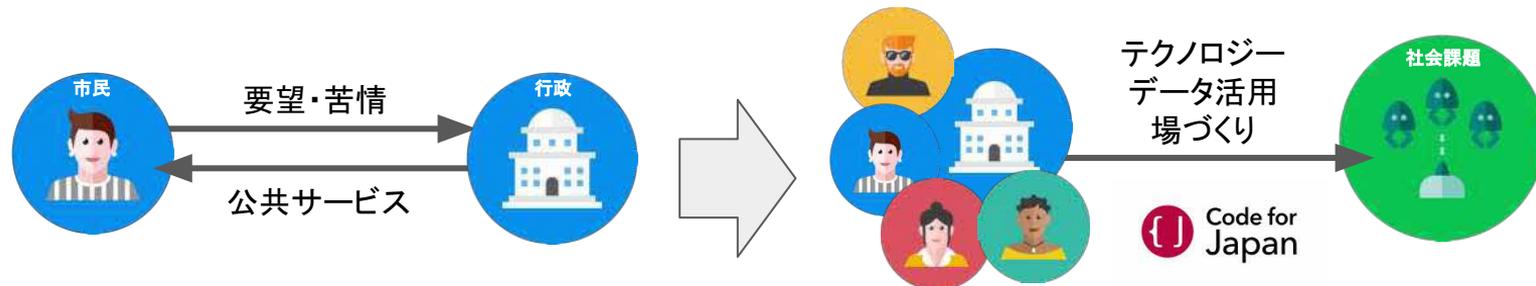
シビック (Civic: 市民) × テック (Tech: 技術)

「シビック」と「テクノロジー」を掛けあわせた造語

ともに考え、ともにつくる社会

シビックテックアプローチ

公共モデルを「依存」から「共創」へ



共創のために、それと相性のよいデジタルをしっかりと使う
(でも、アナログも大事という当たり前のこと)

シビックテックの歴史



コロナ禍でのシビックテックの活動

コロナ対策サイトから、接触確認・教育・飲食店支援などにも派生

東京都新型コロナウイルス 感染症対策サイト



各地(都道府県・市区町村など)に派生

コロナ関連の 支援ツール開発



おうちで時間割



まもりあい
Japan



日常のシビックテック活動



Social Hack Day Online

毎月第3土曜日 10:45 AM – 6:00 PM

何かやりたい人、やっている人がプロジェクトを持ち込んで、仲間を募り、みんなで手を動かしながらサービスをつくりあげるプロジェクト継続型の1dayハッカソンです。



コミュニティとしてのシビックテック活動



「いつ、どのゴミが収集されているのか？」

ゴミの問題はどの地域でも深刻になりつつあります。Code for Kanazawaでは、まずは正しいゴミの捨て方に注目しました。例えばお引っ越しをされた場合や、新しく金沢市に住むことになった時、このアプリを使えばすぐに分かるように、目的と使い方をとてもシンプルにデザインしました。



色でゴミのジャンルを表示

一番近いゴミの日とジャンルを上から順に表示しています。

捨てる事が可能なゴミ

ゴミのジャンルをタップすると、捨てる事が可能なゴミの一覧を見ることができます。

設定

お住まいの地域を選択することで、ゴミ収集日が自動的に更新されます。今後スマートフォンのGPSから位置情報を取得する機能を追加する予定です。

5374.jp for Fukuchiyama

サービス開発型

10月
8

京都！街歩き！マッピングパーティ：第32回 Re:妙心寺

主催：山下康成



ハッシュタグ： #osmjp

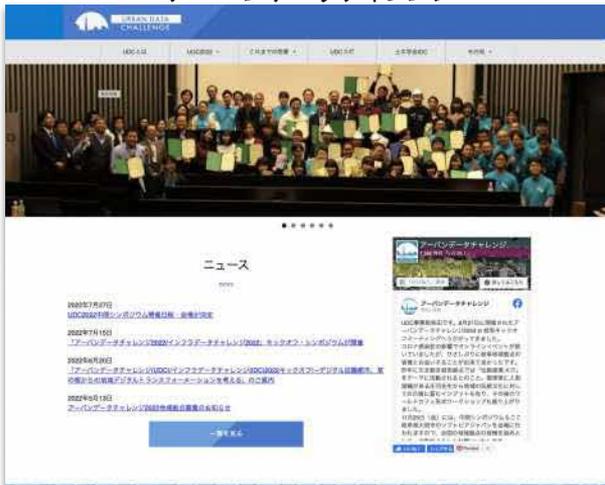
募集内容

マッパー
無料

先着順
5/10人

フィールド活動型

アーバンデータチャレンジ



LODチャレンジ



© Code for Japan

チャレンジオープンガバナンス

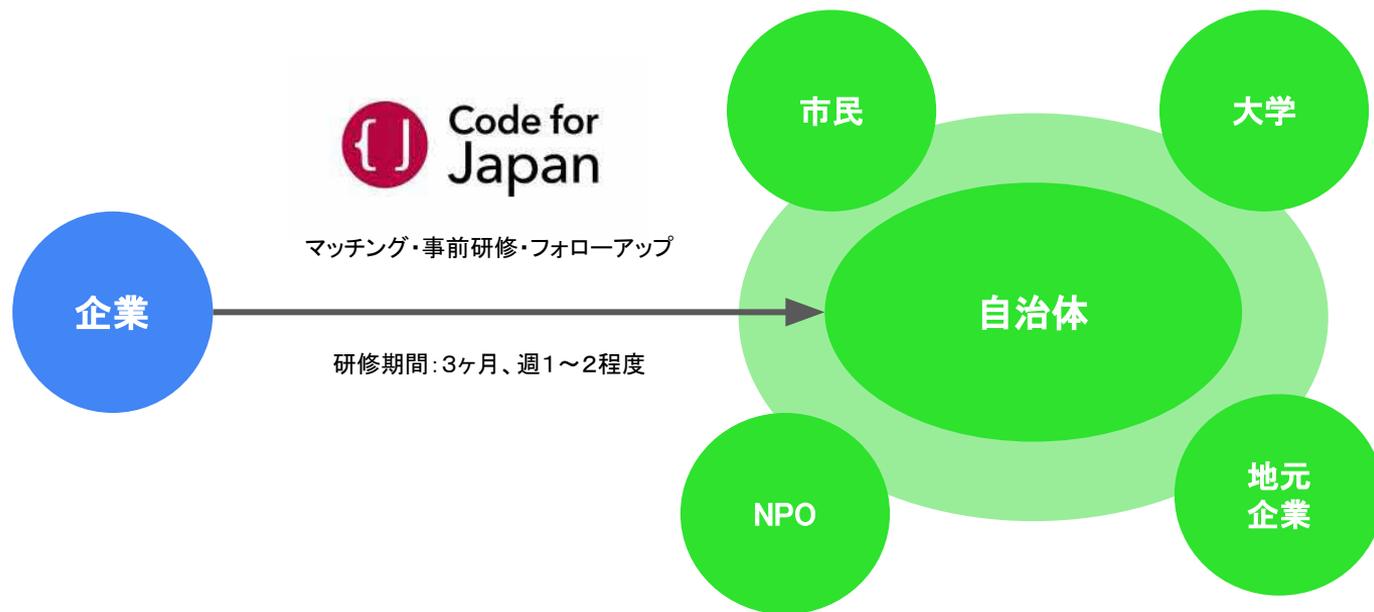


シビックテック・アクセラレーター・プログラム

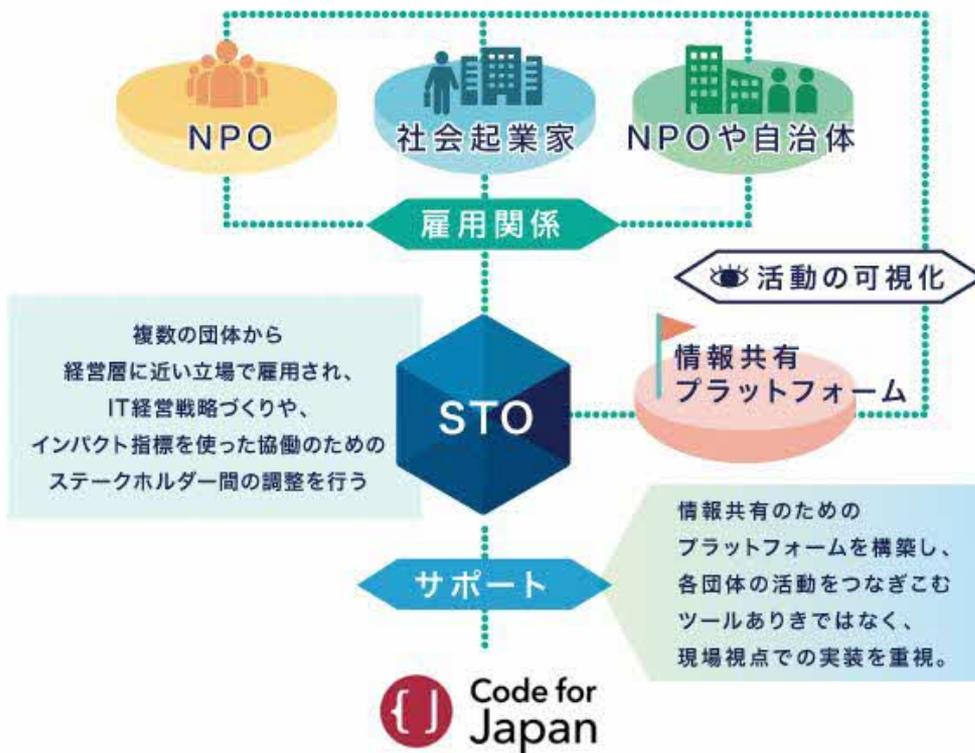
課題解決スキーム 提供型

地域フィールドラボ

官民連携促進型



官民連携促進型

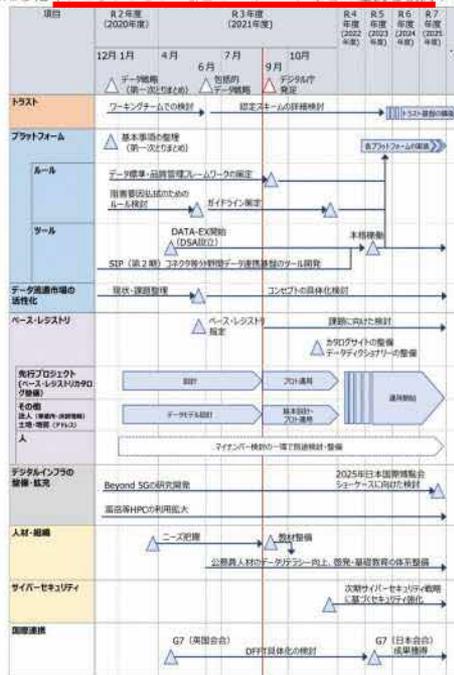


包括的データ戦略

令和3年(2021年)6月18日

Appendix : 包括的データ戦略のタイムライン

今後、アウトカム指標と合わせたKPIの設定を検討する。あわせて、進捗管理の見える化やシビックテック⁶⁴などのコミュニティとの連携を検討する。

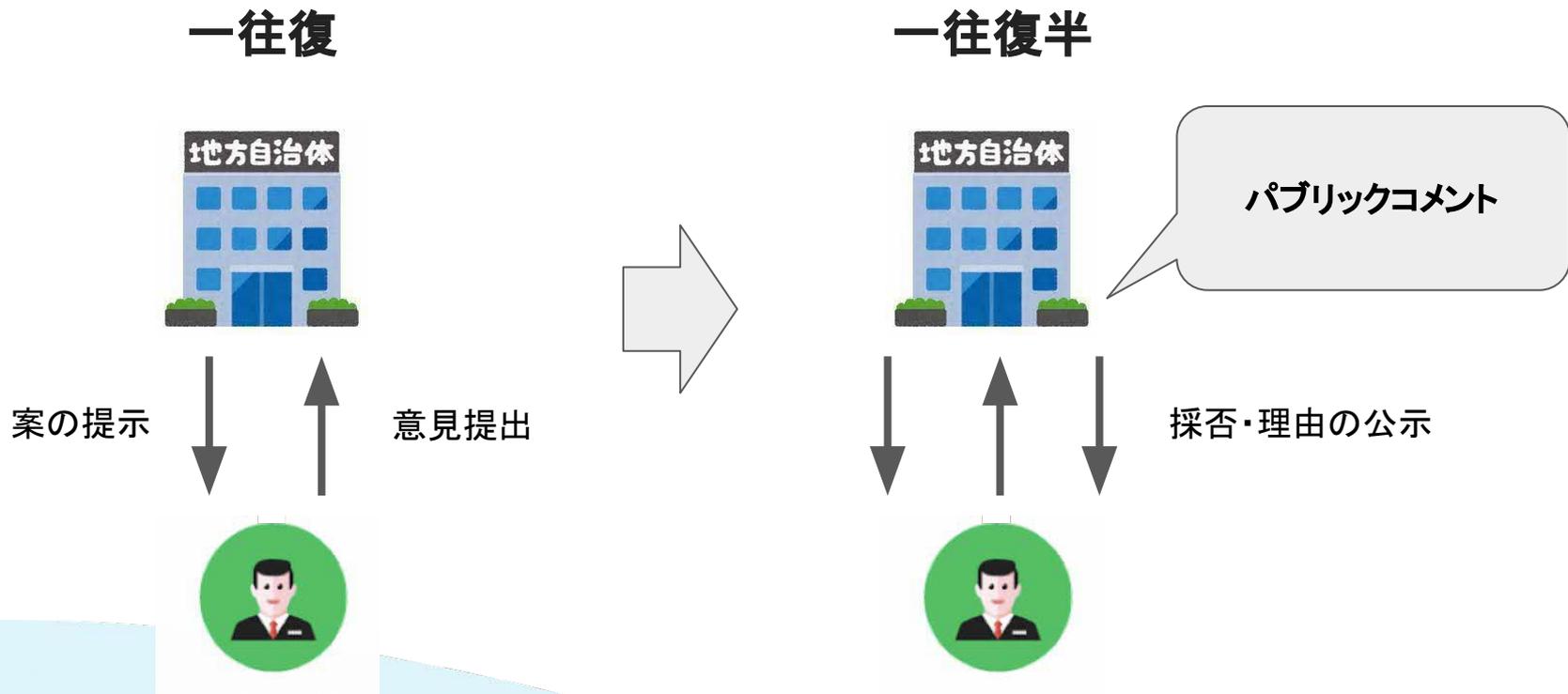


アドボカシー活動型

社会的に弱い立場にある人たちの権利を守る／主張を代弁するという意味合い

新たな市民参加

市民参加の変遷



市民参加の仕組みのアップデート

- **パブリックコメントの形骸化は、テクノロジーによって解決される事柄**

しかし、それだけでよいですか？

すでにある取り組みの活性化が目指されるべきでは？

各地の市民参加条例における 「市民政策提案手続」



18歳以上の市内に住所のある
10人以上の署名が必要

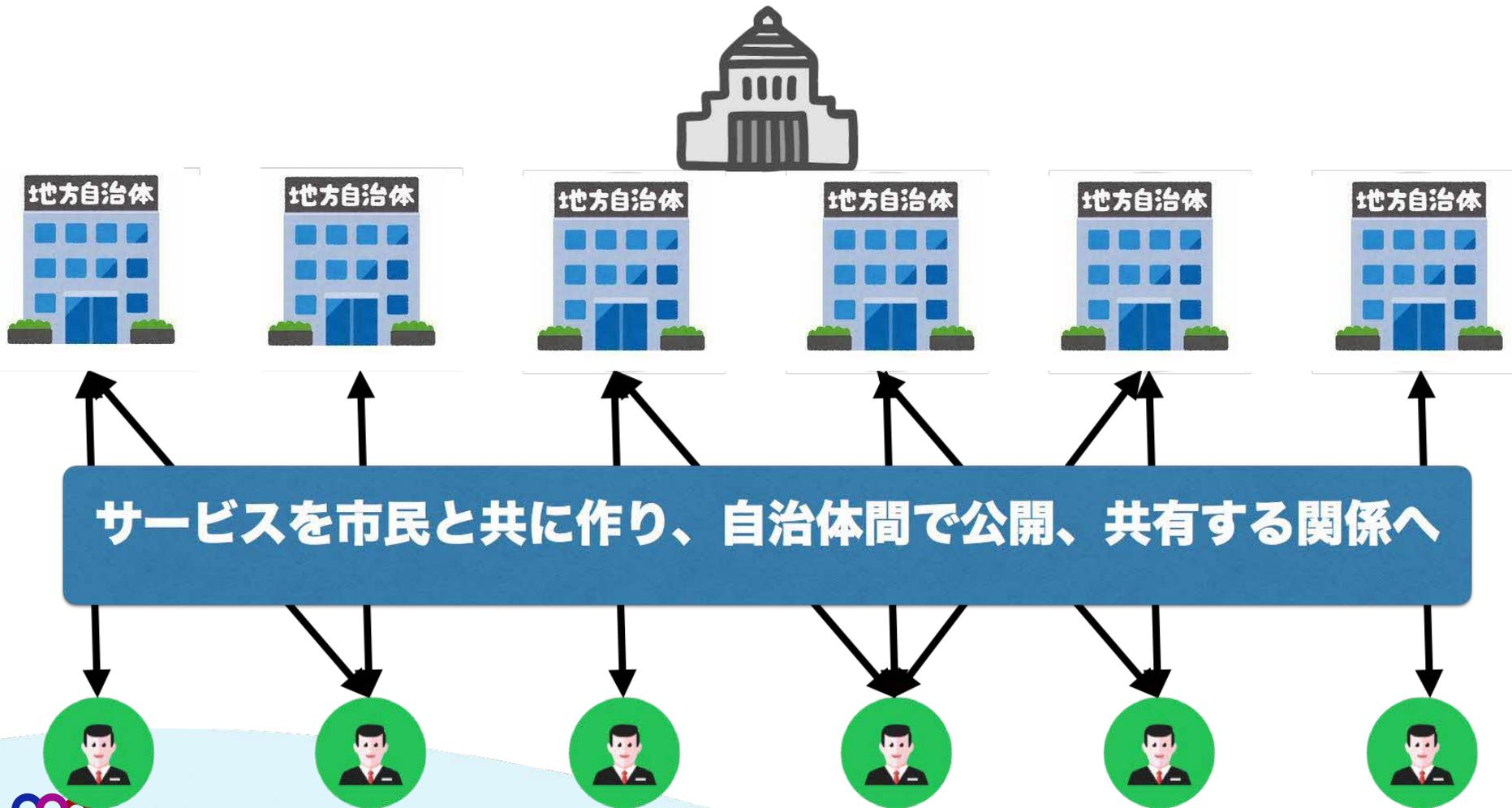
- 本人確認によるID作成
- フェーズを区切って議論をする、意見をまとめるなどの発散・収束の場作り
 - 提案機能によりサポートを募ることが可能

参加型熟議民主主義

Society5.0における基盤的制度の一つ

我々の社会の根幹である民主主義の在り方は、デジタル技術によってより充実していく可能性がある。伝統的には、情報伝達手段の限界から、単純な投票による多数決や企業・業界団体・市民団体によるロビイング等による政治決定が行われてきたが、デジタル技術を活用することによって、多様な市民が参加する、より高い正統性と反省性をもった話し合い(熟議)による民主主義が実現できる可能性がある。以下のような要素を考慮。

- ① デジタル技術を活用した民主主義の実質化
- ② デジタル技術がもたらす民主主義へのリスク



Agenda

1. 「Make our City」とは
2. シビックテックとは
3. **テック＝技術は、人を幸せにするのか**

技術は人を幸せにするのだろうか？

便利 = 幸せ？

ドローンでもものが届く
ようになって、
コミュニケーションの機
会がなくなったら？



技術的な価値ばかり
に注目して、持続的で
ない都市開発をしてし
まったら、住民は幸せ
なのか？

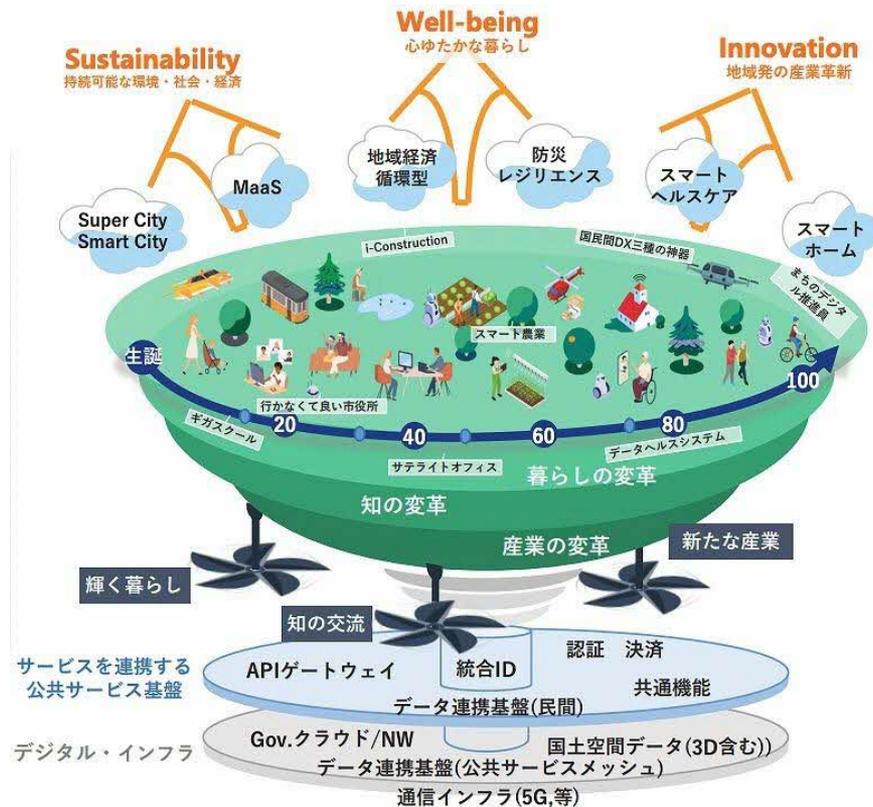


便利 ≠ 幸せ

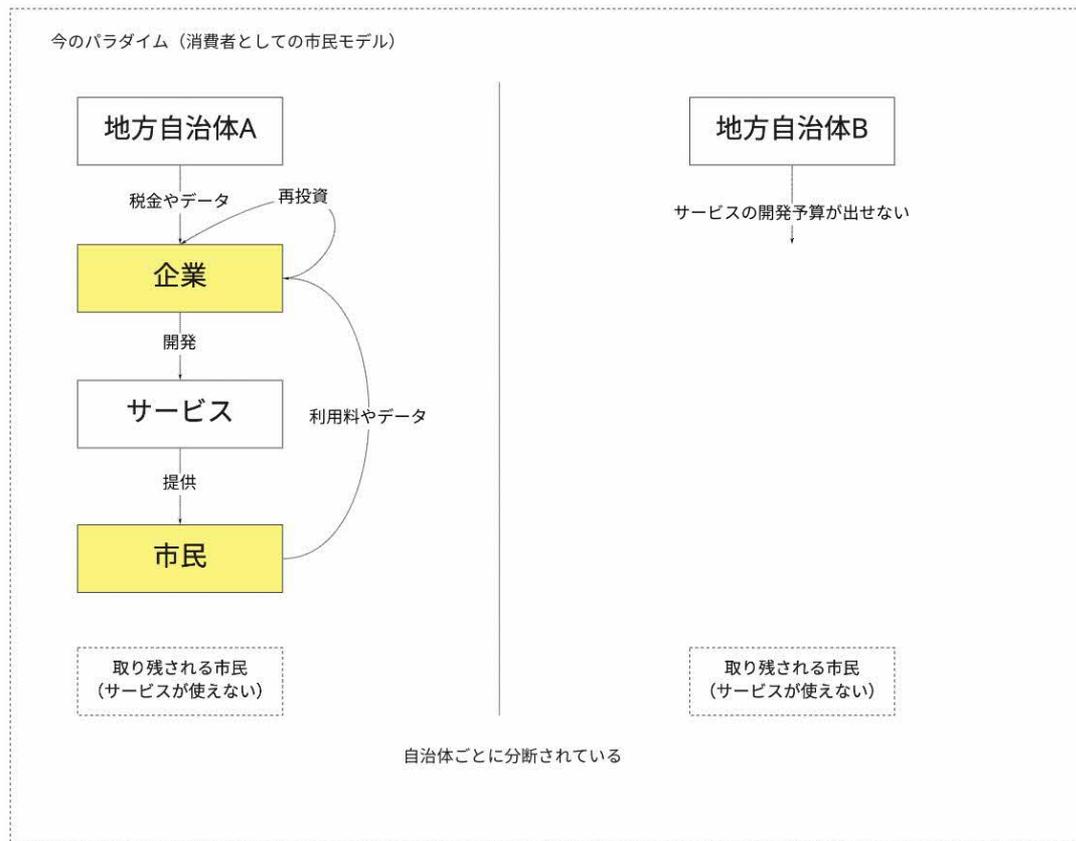
「スマート」なシティって？

「スマートシティ」とは

自治体行政および都市が有するサービスや機能をデジタル化し、住民とともにイノベーションを起こすことによって、住民の生活の質を向上するとともに、より効果的な都市機能を提供する状態

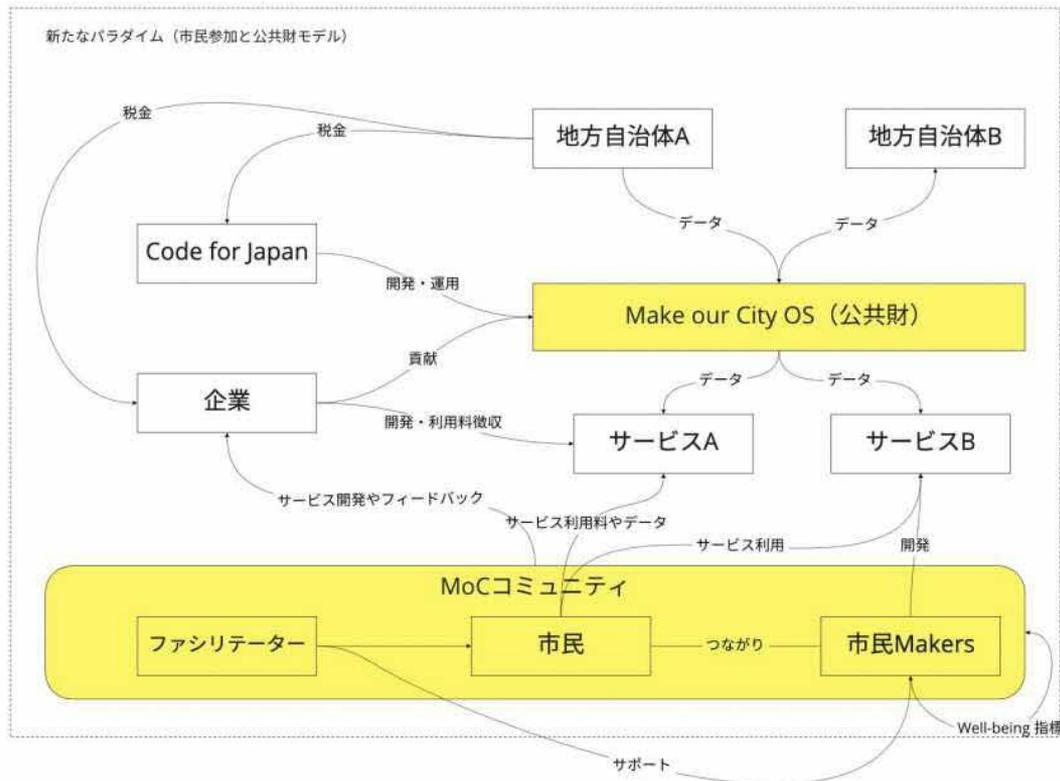


現状のスマートシティ



目指すべきエコシステム

- 同じ方式で使えるプラットフォームが広がることで、市場が生まれる
- 公共財として使える
- 対応サービスやセンサーが広がることで、サービス間の競争が生まれる
- コミュニティ化により、市民との共創が可能になる
- 企業側も低コストでサービスを開発でき、市民にもちゃんと使ってもらえる
- 自治体側は、他の自治体と協同で開発することで利用料を安く抑えられる上に、他市で使われているサービスも利用しやすい



「スマート」とは、『賢い』ということ

「賢い街」ってどういうこと？

- Intelligentでもcleverでもなく、smart
- smartはより幅広い

PDCAでも、OODAでもいいけど、1周回って同じ所にもどってくるようなら、それは「賢い」と言える？

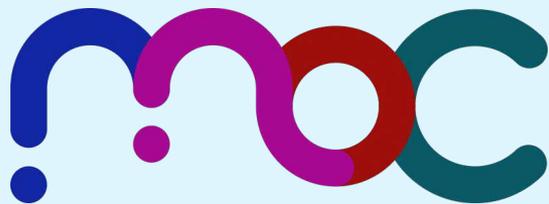
多様なステイクホルダーが集い、データに基づいて、アジャイルに軌道修正しながら、常に成長していくイメージ



MoCとは、
スマートシティとは、
シビックテックそのもの

Make our City

わたしから始める、スマートシティ



さあ、まずはあなた自身が「わたし」となって、
やりたいことを実現してみませんか？